

令和元年度 第5回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議
《議事概要》

開催日 : 令和2年1月30日(木)

開催時間 : 開会 午後2時00分 閉会 午後3時45分

開催場所 : プラサヴェルデ301・302会議室

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	日本大学 特任教授	座長
	森本 章倫	早稲田大学 教授	
	小泉 秀樹	東京大学 教授	
	福井 恒明	法政大学 教授	欠席
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会(第一) 会長	
	高田 利昭	沼津市自治会連合会(第五東) 副会長	
	山崎 健一郎	沼津市自治会連合会(第五開北) 会長	
	千葉 秀美	沼津市公共交通活性化対策協議会 委員	欠席
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
交通事業者	木村 誠司	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当部長	代理出席
	堀内 明広	富士急シティバス株式会社 代表取締役	
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	青柳 太	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	欠席
	坪内 大輔	静岡県 沼津警察署 交通官	
	勝又 泰宏	静岡県 交通基盤部 都市局 局長	
	望月 康史	静岡県 沼津土木事務所 次長	代理出席
	小林 康彦	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 室長	
	新屋 千樹	沼津市 副市長	
	羽田 充明	沼津市 まちづくり統括監	
	松下 藤彦	沼津市 都市計画部 部長	
	平野 明文	沼津市 沼津駅周辺整備部 部長	
	岡田 卓治	沼津市 産業振興部 商工振興課 課長	代理出席
	村上 浩昭	沼津市 建設部 部長	

<次 第>

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 沼津市中心市街地まちづくり戦略について
 - (1) 前回会議以降の取組
 - (2) 前回会議の振りかえり
 - (3) パブリックコメント
 - (4) 今後の進め方
- 4 意見交換
- 5 閉会

<議事概要>

岸井氏	事務局から前回会議以降の取組やパブリックコメントを踏まえた戦略の修正内容、今後の進め方について説明していただいた。このことについて、各委員からご意見、ご質問をいただければと思う。
岸井氏	参考資料 3 で戦略冊子デザイン案が示されているが、戦略の中身は変えずにデザインやレイアウトを変えるとすることで良いか。戦略の中身の圧縮は行うのか。
事務局	中身の圧縮は行わない。第 4 章の各戦略を強調しながら、全体のデザインやレイアウトの調整を行う予定である。
岸井氏	これまでの議論を踏まえてまとめた戦略に、パブリックコメントを受けて不足していた部分を追加するものであり、戦略の全体像を大きく変えるものではない。特に問題がないようであれば、こちらの内容で冊子化を進めていきたい。 冊子化にあたっては、見やすくなるようにデザインは修正するが、内容の変更は行わないとのことであるので、市と私で調整させていただければと思う。
岸井氏	それでは、本日は来年度以降、戦略の実現に向けてどのように進んでいけば良いかといった観点からもご意見をいただければと思う。
小泉氏	市民の参画として、「一般市民」、「関係地権者・事業者等」、「まちづくりの担い手」のように、取組主体についてわかりやすく整理していただいているが、このような人たちをどのように巻き込んでいくかといった具体的な戦略・戦術が今後必要になると感じている。エリアマネジメントの意向がある団体やリノベーションまちづくりに関わっている人々、まちづくりファンドで中心市街地を対象に活動している人々など、異なる取組

の中で活躍している人たちを結びつけながら、市民の参画を促し、まちづくりの担い手を育てていくことが重要である。

また、駅前広場の周辺や（都）沼津駅沼津港線沿道の地権者・事業者との関係づくりも非常に重要なポイントであり、具体的な取組内容をこれから考えていただければと思う。

事務局

社会実験を含め、検討の早い段階から将来まちづくりの担い手になり得る人に参加してもらいながら、ハード整備によって創出される空間をどのように利活用していくのか検討を進めていきたい。

道路空間の再配分については、実現に向けて様々な課題が出てくと思うが、沿道地権者や事業者の意見を聞きながら、丁寧に説明し、情報共有することで、実現に向けて一步一步進んでいきたい。

森本氏

しっかりと伝えないと市民に理解してもらえないので、この戦略をどのようにPRし、浸透させていくのが重要である。シンポジウムの開催、スマホでも閲覧可能なHPやSNSを活用した市民とやり取りできる場の開設など、様々な方法が考えられる。

事務局

広報活動として、12月に「広報ぬまづ」で本戦略のPRを行い、12月末にはシンポジウムを開催した。また、要望に応じて出前講座という形で戦略の説明も行っている。今後も様々な媒体を活用して、PRに努めていきたい。

岸井氏

本戦略は特に駅周辺の話であるので、交通の話は必須であり、駅前広場や道路空間の再編を行うとなると、今ある交通システムが大きく変わることになる。ある程度ハード整備が進まないといけないことではあるが、とはいえ、ずっと待っているわけにもいかない。交通事業者から何かこれからの取組について、ご意見等があればお願いしたい。

堀内氏

これまで沼津駅のバス乗降場は事業者ごとに分かれていたが、今年の4月から行先方面別に再編する。ここ数十年実現できなかったことが実現するため、非常に大きな変化であると思う。これを機に、沼津駅に乗り入るバス事業者3社が互いに手を取り合って、利便性の向上に努め、駅前を地域の人により利用してもらえるようにしていきたい。また、JR等の一次交通とともに国内外から沼津に人を呼んで来られるような交通網を構築していきたい。

木村氏

この戦略の実現により、中心市街地を含め沼津市全体が発展し、駅利用が増えることにもつながれば、双方にとって良いものとなる。そのためにも、前提となる鉄道高架事業を関係者と議論しながら着実に進めていきたい。また、まちづくりにおいても駅は

大きく関わるため、こちらも関係者としっかりと議論し、良いものをつくってほしいと思う。

鉄道高架事業は事業期間が長いので、どの段階においても利用者に不便が生じないように機能を担保していくことが重要である。段階ごとに関係者と細かい議論を重ね、最終形に向けて進んでいきたい。

鈴木氏

今月、タクシー事業者が集まった中で、市に戦略について説明してもらった。事業者からは、ヒト中心の駅前広場とするためにタクシープールが縮小されることになると思うが、代替の待機場はどうかといった声が上がっていたことから、今後の詳細な検討の中で配慮いただけたらと思う。

タクシー業界では、来月から、ちょい乗りの需要増を念頭に初乗り運賃を引き下げ取組を実施し、来年度には市と協力して、深夜乗り合いタクシーの実証実験も行う予定である。さらに、改正道路交通法が施行されることでタクシーにできることの幅が広がるため、できることであれば何でもするという覚悟を持ちながら、公共交通の充実に寄与し、沼津市の定住人口拡大に貢献していきたい。

岸井氏

地域の公共交通を巡る環境は大きく変化しており、バスやタクシー事業者にとって難しい状況にあると思う。国交省には、地域の公共交通体系についてしっかりと計画を立て、それを支えていくという考えがあるため、上手くその流れに乗ることで、他の自治体より先に何か新しい取組ができれば良いと思う。

佐藤氏

私達が一番気に掛けていることは、子供達が安心して学校を行き帰りすることができるのか、ということである。特に駅まち環状については、どのような歩道が整備されるのか、車の流れはどう変わるのか気になっている。可能であれば、子供達や移動制約者が安心して通行できるような歩行空間をつくっていただきたい。自転車は歩行者にとって危険な乗り物であるため、歩行者と自転車の関係性にも配慮していただければと思う。

駅前広場は防災の拠点にもなるので、今後近隣住民も議論に入れていただければと思う。また、沼津には様々な歴史や文化があるので、沼津に来た人が、沼津がどういったところかわかるように、駅前広場に沼津の歴史や文化を伝えることができるスペースをつくっていただきたい。狩野川のような自然は残されているが、城下町等の文化的なものが残されてなく、寂しい印象がある。

高田氏

まちづくりの担い手に関しては、外部の人だけに頼るのではなく、地元の商店や事業者たちもある程度担っていかなくてはならないと感じている。地域の商店等が将来まちづくりの担い手として携わっていくにしても、リノベーションまちづくり等を通して若い人達を呼び込み、新たな商店を営んでもらうにしても、イメージがあることで参加

しやすくなるので、まずは広報活動に力を入れていくことが重要であると思う。

杉山氏

鉄道高架事業は非常に事業期間が長いことから市民の目標や目的が見えにくくなっていたが、その中で、車からヒトへというわかりやすい方向性が示された。これを生かすも殺すも市民であるので、市民の意見を聞いて、使い勝手の良い空間をつくっていただければと思う。

また、開発が行われる部分は有機的に検討が進められることになると思うが、開発が行われない部分についてもどのような空間としていくのかを周辺の方の意見を聞きながら、集約できるものはするという発想で、検討を進めたほうが良いのではないか。そのためには、この戦略を市民にしっかりと周知し、意見を収集するとともに、開発が行われない部分についても、官民が一緒に検討を進める仕組みづくりが必要になると思う。

芦川氏

これから市がどのようにこの戦略をPRし、市民に届けるかが重要であると思う。パブリックコメントの中にサッカースタジアム構想に関する意見があったが、現実的には非常に難しいと思う。議論を経て作りあげてきたものを後戻りさせないように、この戦略を早く公表し、沼津市の方向性を示していただきたい。

戦略がよくまとめられていたとしても、各論となると利害関係者等から様々な意見が出るのが想定されるが、市が戦略の実現に向けて動いているところを見せないと市民の体も動かないだろう。

小林氏

今後、市民参画についてどう考えていくかが重要である。公共空間の再編などにより市民の行動や生活習慣が大きく変わるため、総論は賛成であっても、各論となると様々な意見が出てくるので、市民の意見を聞きながら進めていくことが重要になると思う。

質の良い空間をつくるためには、公共空間だけではなく、周辺の建物の景観をどう誘導していくのかをしっかりと検討していかななくてはならない。そのために、都市型住宅の立地促進として、建築物のデザインルールの検討を次年度以降進めていくとロードマップに記載されているが、検討にあたっては、市民や民間事業者を巻き込んで議論することが重要である。さらに、老朽化に伴う建物の建替えの話は、いつ起こってもおかしくない状況であるので、時間をかけて検討するところと、早期に実現を目指すところを上手く使い分けて進めていく必要があると思う。

空間デザインのガイドラインを策定するなど、戦略に示されたことをより具体化して示すことができるように、検討を始めていただきたい。

勝又氏

市民への広報について、これまでの経験で、様々な媒体を用いて説明してもわかってもらえないことは多いと感じている。本戦略についても同様の状況が考えられるので、どのように広報していくのか一緒に考えていければと思う。

本戦略は、長期的な計画であるため、これから出てくる新しい技術や考え方をフレキシブルに取り入れて、対応していくことが大切である。

岸井氏

長期的な計画ではあるが、市民にとっては生活そのものであるため、時間軸が合わない場合がある。そのため、このような方向性に向かって議論しているということをしつかりと市民に伝え、何かやろうというときには相談に来てもらえる環境をつくることが重要である。

公共空間の再編について各地で議論されているが、物流や荷捌きが問題になる。しかし、実際に確認してみると、物流スペースに停まっている車の多くは一般車であったなど、想像していることと、実態があっていないことがよくある。物流もルールのひとつであるので、社会実験等で少しずつ動かしながら習慣付けていくことで市民にも馴染んでいくと思う。繰り返し時間をかけながら、進め方を見つけていければ良いと思う。

多くの委員から意見があったように、戦略としては、よくまとまったと思うので、大切なのはこれからである。戦略の実現に向けて、ご協力いただける方の数を増やして、進んでいけるようにしていきたい。

芦川氏

今までまちづくりに興味を持っていなかった人が最近になって興味を持ち始めている。今後個別の相談があれば、市を紹介するようにしたい。

事務局

まちづくりに興味を持っていただいているということは、まちが変わるということに対する期待感を含んでいると好意的に解釈させていただきたい。市民や商店街、地権者の方などに対して、丁寧に本戦略に示したまちづくりの方向性を説明していきたいと思う。

事務局

パブリックコメント及び本日の委員からのご意見を踏まえて修正し、座長である岸井先生と調整の上、本戦略を策定・公表させていただきたい。

以上